

⑫ 公開実用新案公報 (U)

昭55—164147

⑮ Int. Cl.⁹
B 65 D 33/36
33/38

識別記号

庁内整理番号
7418—3E
7418—3E

⑯ 公開 昭和55年(1980)11月26日

審査請求 未請求

(全 3 頁)

⑭ 粘性流動物用容器

⑰ 実 願 昭54—59736
⑱ 出 願 昭54(1979)5月4日
㉑ 考 案 者 井上 覚

高槻市殿町2丁目10番
⑰ 出 願 人 大日本印刷株式会社
東京都新宿区市谷加賀町1丁目
12番地
⑱ 代 理 人 弁理士 渡辺 勤

⑰ 実用新案登録請求の範囲

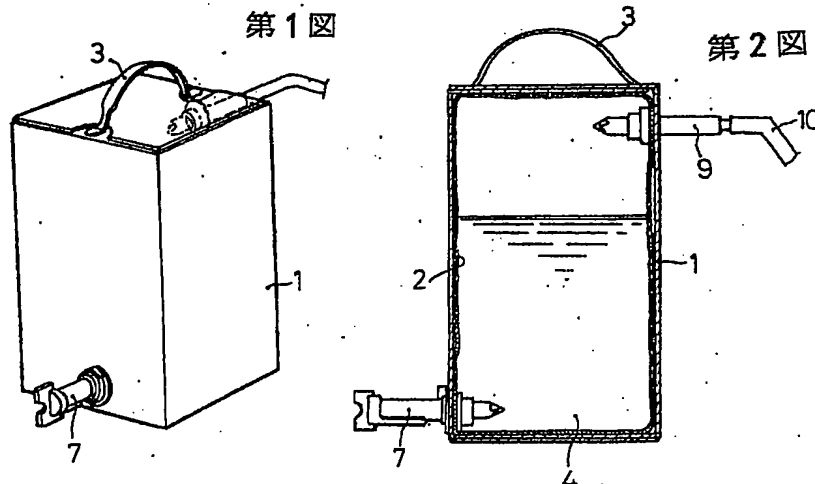
- (1) 外箱内に内袋を内装したものであつて、内容物流出口が形成できる容器において、少なくとも外箱に対して内装を固定した部分に穿孔により気体注入口が形成できる先端が鋭利な気体注入用プラグ又は注射針の差込口部を形成してなる粘性流動物用容器。
- (2) 差込口部にプラグを取付けるためのアダプタリングを設け、これに嵌合されるインナーリングとで内装袋を外箱に対して未開封状態のまま固定してなる実用新案登録請求の範囲第1項記載の粘性流動物用容器。
- (3) 外箱に内袋を固定に当り、接着剤で直接固定するか又は外箱と内袋の間にゴム板を介装して之等を接着剤で相互に固定することによりなる実用新案登録請求の範囲第1項記載の粘性流動

物用容器。

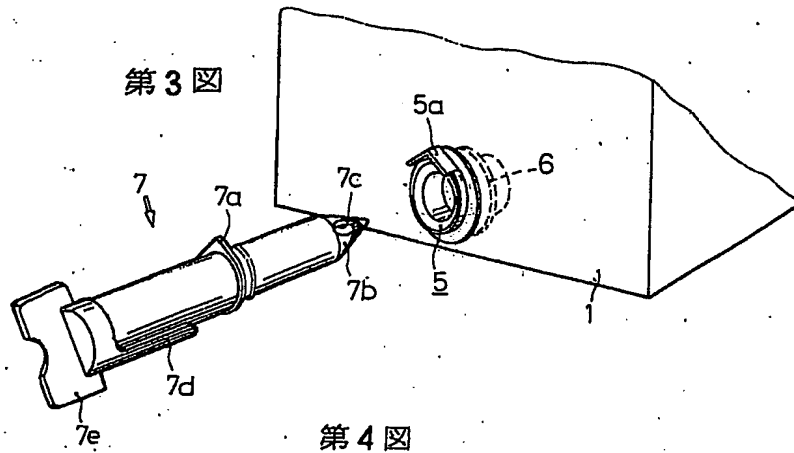
図面の簡単な説明

第1図は本案容器の使用状態を示す斜面図。第2図は同上切断面図。第3図は内容物流出口部においてプラグを差し込まんとする状態を示す斜面図。第4図は使用状態の内容物流出口部の切断面図。第5図はプラグ使用状態の気体流入口部分の切断面図。第6図は第5図とは異なる実施例にかかる気体注入口部分の切断面図。第7, 8図はそれぞれ異なる実施例にかかる注射針使用状態の気体注入口部分の切断面図である。

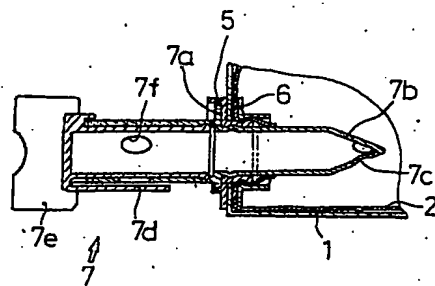
1……外箱、2……内袋、5……アダプタリング、6……インナーリング、7……内容物流出口のプラグ、9……気体流入口のプラグ、11……注射針、14……ゴム板。



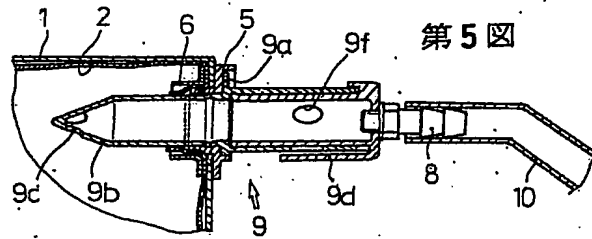
第3図



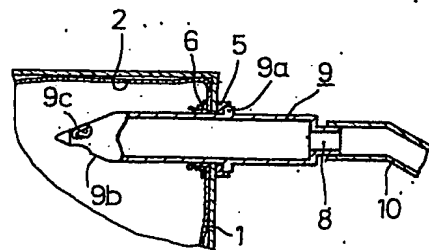
第4図



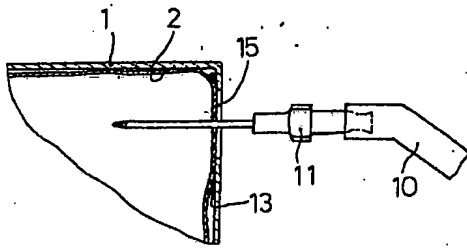
第5図



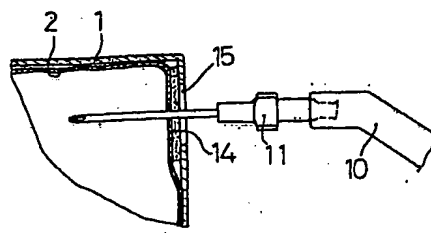
第6図

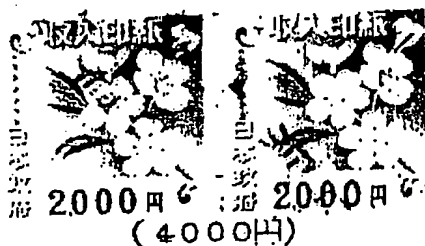


第7図



第8図





実用新案登録願 (1)

昭和 44 年 5 月 4 日

特許庁長官 熊谷 善二 殿

1. 考案の名称 ^{キレキレノウツク フラ ヲウ ヲウ} 粘性流動物用容器

2. 考案者

住所 大阪府高槻市殿町 2 丁目 10 番
氏名 井上 覚

3. 実用新案登録出願人

住所 東京都新宿区市谷加賀町 1 丁目 12 番地
氏名 (289) 大日本印刷株式会社
(国籍) 代表者 北島 織衛

4. 代理人 〒102

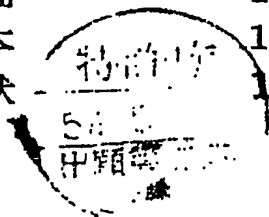
住所 東京都千代田区六番町 7 番地 下条ビル 3 階
氏名 (7070) 弁理士 渡辺 勤

電話 (264) 4369 番

5. 添付書類の目録

- | | | |
|----------|---|---|
| ✓(1) 明細書 | 1 | 通 |
| ✓(2) 図面 | 1 | 通 |
| (3) 願書副本 | 1 | 通 |
| (4) 委任状 | 1 | 通 |
- 追つて補充する。

方式
審査



164147

54 059736



明 細 書

1. 考案の名称

粘性流動物用容器

2 実用新案登録請求の範囲

- (1) 外箱内に内袋を内装したものであつて、内容物流出口が形成できる容器において、少くとも外箱に対して内装を固定した部分に穿孔により気体注入口が形成できる先端が鋭利な気体注入用プラグ又は注射針の差込口部を形成してなる粘性流動物用容器。
- (2) 差込口部にプラグを取付けるためのアダプタリングを設け、これに嵌合されるインナーリングとで内装袋を外箱に対して未開封状態のまま固定してなる実用新案登録請求の範囲第1項記載の粘性流動物用容器。
- (3) 外箱に内袋を固定に当り、接着剤で直接固定するか又は外箱と内袋の間にゴム板を介装して之等を接着剤で相互に固定することによりなる実用新案登録請求の範囲第1項記載の粘性流動物用容器。



3. 考案の詳細な説明

本案は粘性流動物用容器に関するものである。

一般に外箱内に内装袋を内装した、いわゆる Bag in Box に粘性流動物を入れた場合注出し難いという難点がある。又流出するものでも残量はかなり多く、又流出量も一定しない。

そこで本案にあつては、容器上部より気体を送り込んでその圧により内容物を流出させることができるようにしたものである。

すなわち、少なくとも外箱に対して内装を固定した部分において、穿孔により気体注入口が形成できる先端が鋭利な気体注入用プラグ、又は注射針の差込口部を構成したもので、本案のものによればポンプで内容物を吸い出すものに比べてポンプの能力が小さくともよく、又内容物が強酸、強アルカリ等の場合でも内容物が直接ポンプに触れないので、どのような内容物にも適用できるものであり、気体として N_2 、 CO_2 等不活性ガスを使用すれば内容物が酸化を嫌うものであつても使用できる。

以下図面に示す実施例について説明する。

第1、2図において(1)は外箱であり、(2)はその外箱に内装される内袋である。(3)は外箱の把手であつて、内袋(2)内に内容物(4)が充填される。

以上のような Bag in Box の内容物流出口は、第3、4図で示すようにプラスチック成型品であるアダプタリング(5)を外側から外箱内に差し込み、内袋(2)の内側からそのアダプタリング(5)に対して同様に、プラスチック成型品であるインナーリング(6)を嵌め込むことにより後述する2重加圧気体注入用のプラグ差込口と同様に、内袋(2)を挾持して内袋(2)を外箱(1)に対し固定し、穿孔によつて流出口が形成されるまでは未開封部を構成している。

以上のように構成された差込口部には、先端が鋭利なプラスチック成型品であるプラグ(7)が差し込まれて流出口が形成される。

プラグ(7)が差込口部に差し込まれる際、アダプタリング(5)の山形状止め部(5a)に係合する山形部の形成されたストッパー(7a)がプラグ(7)に形

成されており、内袋を破つて差し込まれた先端の鋭利部(7b)の入口孔(7c)からプラグ(7)の内孔を通つて、外端に回動自在に取付けられたカバー(7d)で開閉される出口孔(7f)から内容物が流出する。(7e)はカバー(7d)の摘みである。

本案は以上のような Bar in Box において、容器上部より気体を送り込みその圧により、内容物を流出させるようにしたものである。

すなわち、第5図に示すものは、内容物流出口の形成部と同様に構成された気体注入用プラグの差込口を示すもので、外箱の外側からアダプタリング(5)が差し込まれこれに嵌合するインナーリング(6)で内袋(2)が外箱(1)に対して固定される。気体注入用の差込プラグ(9)は、先端(9b)が鋭利に形成され、該部分の注入孔(9c)から気体が内袋内に注入される。

気体はパイプ(10)から接手(8)を介してプラグ(9)の内孔を通つて供給されるものであるが、図示のものでは空気入口孔(9f)があり、これを開閉するカバー(9d)がプラグの外端に回動自在に取付

けられており、これに接手(8)が設けられている。そしてアダプタリング(5)に取付けるために、その山形状止め部(5a)に係合する山形部の形成されたストッパ(9a)がプラグ(9)に設けられている。

第6図に示すものは、第5図に示す空気入口(9f)、カバー(9d)、山形状止め部(5a)等が省略されたものとなつている。

以上の如く気体注入用差込プラグの差込口部が構成されているので、輸送中はアダプタリング(5)とインナーリング(6)とで内袋(2)を外箱(1)に固定して、未開封部を構成しており使用に際して差込プラグ(9)でその鋭利な先端を利用して内袋を穿孔して気体を内袋内に注入することができるものである。

第7、8図に示すものは、差込プラグ(9)の代りに注射針(11)を用いた場合を示すもので、かかる場合はアダプタリングとインナーリングは省略され、第7図に示すように内袋(2)を外箱(1)に対して直接ホットメルト等の接着剤(13)で固定す

るか、又は外箱(1)と内袋(2)との間にゴム板(14)を挟んで相互をホットメルト等の接着剤にて固定する。

なお、図中(15)は外箱(1)に形成された注射針差込口である。

差込口は図示のように大きくなくともよく、注射針が差し込める大きさならどのような大きさでもよいが、差込口が形成されていなくともよい。

本案は以上の如く外箱と内袋とを固定するに当り、アダプタリングとインナーリングとで外箱と内袋を固定するか、又は外箱と内袋とをホットメルト等の接着剤で直接固定するもの、他外箱と内袋との間にゴム板を挟んで、それらをホットメルト等の接着剤で固定するものであり、以上のように構成された差込口部に、プラグ又は注射針を収付けて気体を注入するものであるから確実に穿孔できる。

しかして、ゴム板を用いた場合は気密性が保たれるという特徴がある。

なお、アダプタリングとインナーリングとで内袋を外箱に対して固定するには、図示しない片持梁式のセッティングマンドレルを用い、その受口にインナーリングを乗せ、その上から内袋を被せて外箱の差込口部の位置に合せる。そして、その上からアダプタリングを押しつけてセッティングを完了する。

又、内袋を外箱に対して接着剤で固定するにはセッティングマンドレルに内袋を被せ、その上から接着剤にて外箱を接着すればよく、ゴム板を用いるときは、同じくセッティングマンドレルに内袋を被せその上からゴム板を接着剤で接着し、更にその上から接着剤で外箱を接着すればよい。

以上何れにしても本案は、外箱内に内袋を内装したものであつて、内容物流出口が形成できる容器において、少なくとも外箱に対して内袋を固定した部分に穿孔により気体注入口が形成できる先端が鋭利な気体注入用プラグ、又は注射針の差込口部を形成してなる粘性流動物用容器

にかゝるもので、差込口部が未開封状態のときは通常の運搬容器として利用でき、内容物を流出させたいときにはプラグ又は注射針を利用して差込口部の未開封部を穿孔して容器内に気体を注入し、内容物を加圧するものであるから、内容物の流出が良くなるばかりでなく流出量がほぼ定量的になるという特徴がある。

従来のエアレスフローのものは、内容物の多いうちは大量に流出し、少なくなつてくると流出が悪くなるという傾向があつたが、本案のものによればこれが全く解消された。

しかして内容物が加圧されるものであるから残量が少なくなり、又内容物をポンプで吸い上げるものに比べてポンプの能力が小さくてもよいし、内容物が直接ポンプに触れないので内容物を選ばない。

本案のものは粘性流動物食品一般、シャンプー、リンス等の粘性の高いものその他 Bag in Box を使用するに当つて粘度が高いという理由で使用できないものに適して効果がある。



4. 図面の簡単な説明

第 1 図は本案容器の使用状態を示す斜断面図。

第 2 図は同上切断面図。

第 3 図は内容物流出口部においてプラグを差し込まんとする状態を示す斜断面図。

第 4 図は使用状態の内容物流出口部の切断面図。

第 5 図はプラグ使用状態の気体流入口部分の切断面図。

第 6 図は第 5 図とは異なる実施例にかゝる気体注入口部分の切断面図。

第 7、8 図はそれぞれ異なる実施例にかゝる注射針使用状態の気体注入口部分の切断面図である。

(1) …… 外箱 (2) …… 内袋

(5) …… アダプターリング

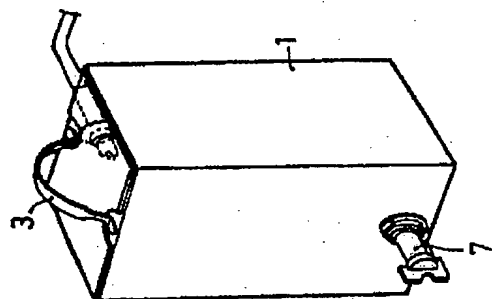
(6) …… インナーリング

(7) …… 内容物流出口のプラグ

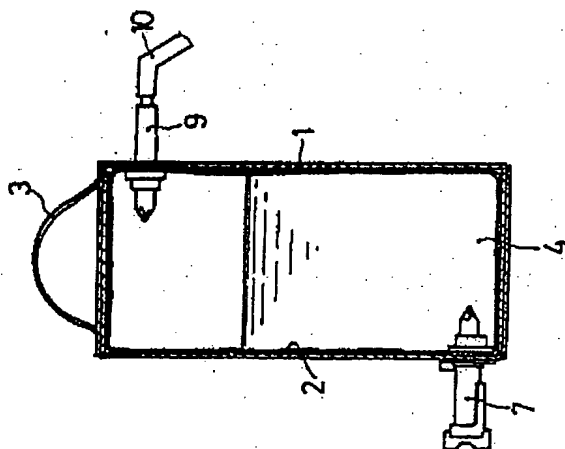
(9) …… 気体流入口のプラグ

(11) …… 注射針 (14) …… ゴム板。

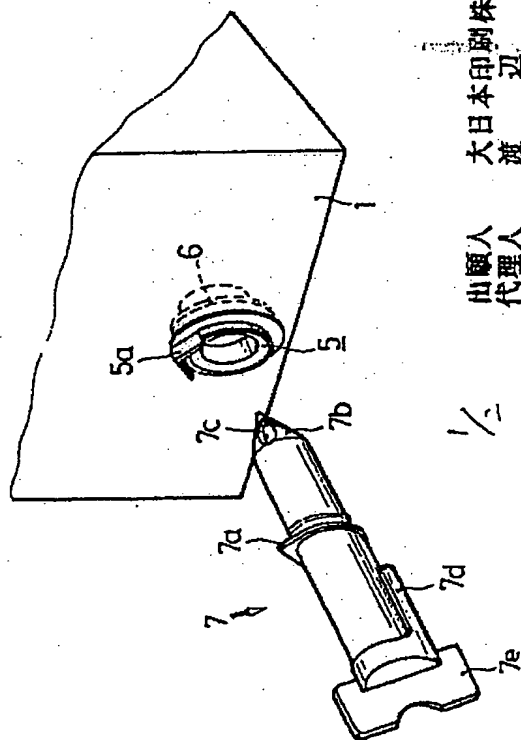
第 1 図



第 2 図



第 3 図

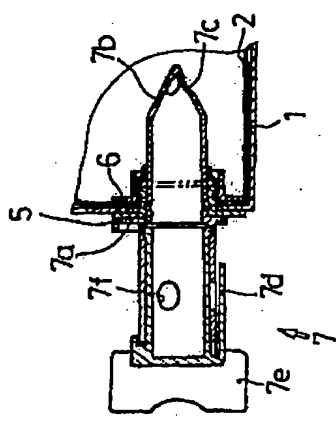


出願人 大日本印刷株式会社
代理人 波 邊 勤

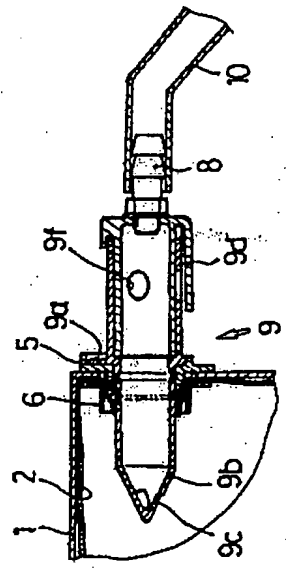
1/2

1969.10.20

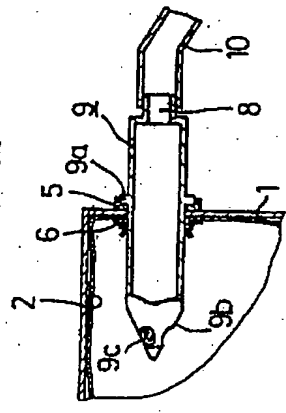
第 4 図



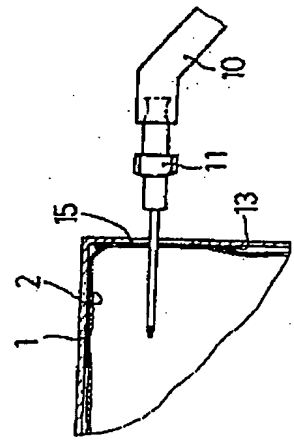
第 5 図



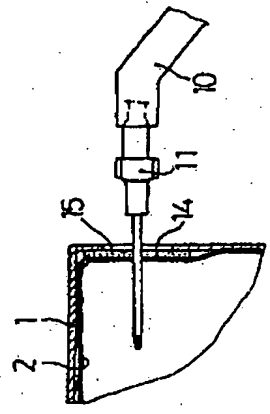
第 6 図



第 7 図



第 8 図



2/2

出願人 大日本印刷株式会社
代理人 渡辺 勤